

広告

企画・制作 LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会

# 「枘」をもっと身近に、もっと自由に

今泉彩子 岐阜／プロダクトデザイナー

「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」(主催：LEXUS)は、日本各地で地域の独自性や技術を生かし、新しいモノづくりに挑む「匠」を応援する。

## 「匠」のモノづくりに挑戦

本プロジェクトは2016年、プロジェクトのスーパーバイザーに、放送作家として多くのヒットを手がけ、くまモンの生みの親でもある小山薫堂氏を迎え、生駒芳子氏(ファッション・ジャーナリスト/アート・プロデューサー)、下川一哉氏(意匠研究所)らをサポートメンバーに発足。以来、全国の若き匠の挑戦が刻まれたプロダクトは、ふるさと納税の返礼品への指定やロックフェラー家主催のチャリティイベントへの出品、上海での国際的な展示会への出品など、目覚ましい活躍を見せている。



作品をプレゼンテーションする今泉さん

3年目となった今回は、全国47都道府県から計50名の若き匠が選出。昨年夏、レクサスギャラリー高輪で行われたキックオフ・セッションを皮切りに、サポートメンバーが実際に工房を訪ねるエリア・コンサルティングを経て、匠は自身のアイデアを磨き、プロダクトの制作に取り組んだ。



1月24日、プレゼンテーションにて

1月24日、東京ミッドタウン日比谷で行われた発表会では、国内外の百貨店・セレクトショップバイヤー・メディア・デザイン関係者などに向けて自身のプロダクトをプレゼンテーション。世界へ羽ばたく足がかり、ビジネス拡大のきっかけとなる大きなチャンスを手にした。



バイヤーに商品説明をする今泉さん

また当日は、2019年の新たな取り組みとして、全国の匠と、世界的クリエイター(コラボレーター)が、新たなプロダクトを制作するコラボレーションプログラムを発表。コラボレーターである隈研吾氏(建築家)、廣川玉枝氏(SOMARITAクリエティブディレクター)、森永邦彦氏(AREALAGE/代表取締役社長・デザイナー)、辰野しずか氏(クリエイティブディレクター/プロダクトデザイナー)が登場し、想いを語った。2019年秋頃には、完成したコラボ作品、過去のプロジェクトから生まれた匠たちの作品を披露するイベントを京都の地で開催することを合わせて発表。プロジェクトも一歩一歩進化している。

「伝統」を守りながら「新しい」感覚やテクノロジーを吹き込む。「地域」の特性を深めながら、その魅力を「世界」へ広く発信する。

LEXUSが掲げる「二律双生」を、地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト。岐阜県選出の匠、プロダクトデザイナーの今泉彩子さんのモノづくりにかける思いと完成した作品を紹介する。

### 初めての挑戦

「自分自身が1からデザインをして、新しい商品を作るのは初めてなんです。」と語るのは有限会社大橋量器(大垣市)の今泉さん。大学の卒業展では「このシートを染織・加工したブックカバーを制作した。モノづくりが好きだ。」

最初はパソコン周りのステーションナリーを制作するつもりだった。学生時代の経験もあり、「枘」の使い方を提案してみようと考えた。だが、どうしてもありがちなデザインに終始してしまう。枘づくりの技術の浅さを思い知らされた。同時に、自身の「枘」の知識がまだ足りないと感じた。どのように枘の面白さを知ってもらおうか。悩みの日々が続いた。

そんな中で、エリア・コンサルティングを迎えた。親身に話を聞いてくれた生駒氏から「誰がどんなシーンで使用するのか」「枘を受け入れてもらいやすいシーンを考えて」というアドバイスを受けた。その言葉で一歩踏み込んだという。

「枘」をエンターテイナーに。枘をエンターテイナーに。テーマに、伝統の枘の姿を継承しながら、現代のライフスタイルに合わせた新しい枘の可能性を提案。枘はシンプルだけに、使う人の工夫で様々な変化する。枘をもっと身近に、そして自由に話した。

## 『枘』をエンターテイナーに

今回のプロダクトを機に、「モノづくり」への理解が深まったという。また、他県の多くの匠と接する中で、自身の不得手な部分、プロとしての自覚と姿勢、そして何よりも枘づくりに対する思いが、より深まった。

「好きなものを作ることも楽しいが、それよりも来てくれたお客さんが喜んでもらえて、『枘』自体に興味を持ってくれ



完成プロダクト「ますちよこ」

エリア・コンサルティングを終えてから、枘の歴史を徹底的に学び直した。「昔から枘はどんなシーンで使われてきたのか」「そもそも枘とはなんだろう」。「現在における枘の役割、使命とは何か」。周囲の先輩や店に訪れるお客さんとも真剣に話をした。

最終的に彼女が選んだのは、「お猪口」。枘の本来の姿である酒器を現代風に制作することにした。「日本酒が飲める器で考えるのが良い。」という生駒氏の後押しもあった。さらに現代人のライフスタイルに合わせることを考えた。そこで生まれたアイデアがお酒を4種類の酒器で楽しく飲むというコンセプト。自宅や飲食店はもちろん、気軽にお花見などで外でも使用できるお猪口。それが今回の彼女のプロジェクトになった。

完成したお猪口は、飲み口を5mmまで薄くし(従来の一合枘は11mm)、飲みやすさを体現。また異なるヒノキのパーツを組みわせて、自然な木目の文様ができた。職人さんにも協力してもらい、薄い飲み口やつき目からお酒が漏れないよう気を配った。陶器のお猪口を参考にはしているが、おしゃれでかつ斬新な4種類のお猪口ができあがった。

「これで屋内はもちろん屋外でも女の子にも、枘酒を楽しんでもらえる。」と今泉さんは語る。枘の深さを感じる作品になった。



スーパーバイザー 小山 薫堂氏

1964年6月23日 熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科に通う。「進め!電波少年」や「料理の鉄人」など、数多くのヒット番組の企画・構成に携わる。執筆活動の他、京都造形芸術大学副学長、地域・企業のアドバイザー、下鴨茶寮主人などを務める。「くまモン」の生みの親でもある。



「水の都」大垣市を流れる水門川



今泉 彩子 岐阜／プロダクトデザイナー

1993年岐阜県神戸町生まれ。大同大学情報学部情報デザイン学科プロダクトデザイン専攻卒業後、2016年大橋量器入社。文具が好きで、大学の卒業展ではPVCのシートを染織・加工したブックカバーを制作し、JIDA中部ブロックデザイン賞・優秀賞を受賞。大橋量器には在籍した研究室の指導教員だった岡田心准教授が、同社と三角すい形の枘などを共同制作した縁を受けて入社し、現在はウェブショップの責任者を務めている。



新しい「枘」をデザインする今泉さん

たことが、本当にうれしかった。さらにバイヤーさんとお話する中でも発見があり、教えてもらうことが多かった。」と話す。今後は「さらに新しい可能性を提案できる自分になり

たい。」と決意を語った。最後に「話を聞きつけた、たくさんのお客さんが枘を買いにきてくれて、地元の大垣が盛り上がる」といいな。」と笑顔を見せた。